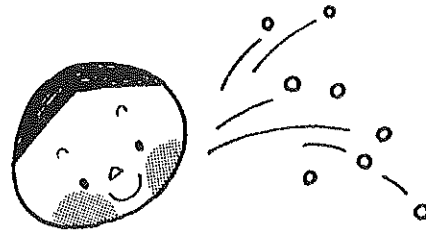


あなたの心に響いた「ことば」と、そのエピソードを教えてください (朝日新聞 2020.1.6.)



青森県教組養護教員部 2020.1.22.



つらいつらいつら気持ちに、順位なんてないよ

—中学校の担任の先生

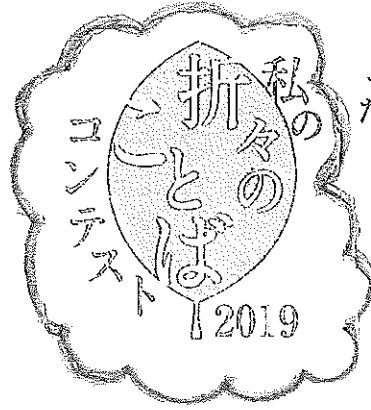
野田清一賞

【高校部門】

野津日向子さん

広島市立舟入高2年

春の中学校バスケットボール大会で私はゴールにはね返ったボールを捕るため、全力でジャンプした。そして着地に失敗。足首の骨を折った。この大会中、母ががんの入院前だったので、点を決めて、少しでも笑顔になって欲しいと力みすぎていたのだ。歩けない不自由さと、母の心配で、正直つらかった。そんな私を見て担任の先生が「話を聞こうか」と声をかけてきた。でも私は誰かに相談するという事が、自分の弱みを握られているようで嫌だった。自分の悩みなんて、しょうもないと思っていた。「私よりつらそうなお話を聞いてあげて下さい」と、ぶっさらぽうに言う。先生は「つらいつらいつら気持ちに順位なんてないよ」と静かに言った。胸の奥が熱くて痛かった。



モヤモヤ 吐き出していいんだ

このことばをくれたのは、中学2年の時の担任、森重朋美先生だ。「今でもここにしっかりと残っている」と、野津さんは何度も拳で胸をたたいて見せた。

全治約3カ月の骨折とされ、ギプスと松葉杖を使う生活。通学、教室の移動、お風呂、トイレ……。すべて不自由だった。

公務員で働き者の母が仕事を休み、約2週間入院すると

いう直前で、余計な心配をかけたくなかった。本当はつらかった。

でも弱いと思われたくないし、「かわいそう」と言われたくもない。そんなモヤモヤした中でもらった先生のことば。「あ、どんな小さなつらさも吐き出していいんだ!」。魔法のことばのように納得し、作文の結びの通り「胸の奥が熱くて痛かった」。

実はこの後、泣いてしまっ

た。「泣いていいよ。私を弱音のはけ口にすればいいから」と先生は言い、それから3~4日間、毎日、放課後のだれもいなくなった教室で、先生はただただうなずいて、野津さんの話を聞いてくれた。「一人で悩むより楽になりました」

野津さんの夢は、小学校の先生になること。「私もいつか、同じことばを誰かに伝えるかもしれません」



きょうの裏面の「ラッキーなことを教える」という文章を読んだ。先月のウッドパッカーのゾロ目の話こそ「ラッキー!」だったんだと思いました。小さなラッキーを見つけることが大事なんですね。とろろがとろろが...今年になってからラッキーを見つけ出してほしい! と思っただけで、ありません。雪が少なく暖かな冬で過ごせたいです。ありがとうございます。「ラッキー!」

文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)

折々ことば 野田清一 1693

「子の曰わく、過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。人はよく過つ不完全な存在。人の評価はむしろ過ちと知った後の身の処し方で決まる。そこをこそ過つな」と。「過ては則ち改むるに懼ること勿かれ」ともいわれ、さらに弟子の子夏が「小人の過つや、必らず文」と述べる。「文」とは言い繕い粉飾して解そうとすること。『論語』(金台治訳注)巻第八・衛靈公第十五から。

子曰、過而不改、是謂過矣

孔子

お元気ですか。3学期が始まりました。風邪やインフルエンザ対策に追われていることと思います。ご苦労様です。教職員の長時間労働が問題になっていますが、みなさんの学校はどうでしょうか。『1年単位の変形労働時間制』が決定されました。現在の7時間45分の勤務時間が1時間ほど延長されるという内容です。県条例を変えて、導入は市町村に任せられるそうです。情報をしっかり取り入れ、導入反対の声をあげていきましょう。

次に必ず会えるかはわからない。気持ちよく別れよう。 —母

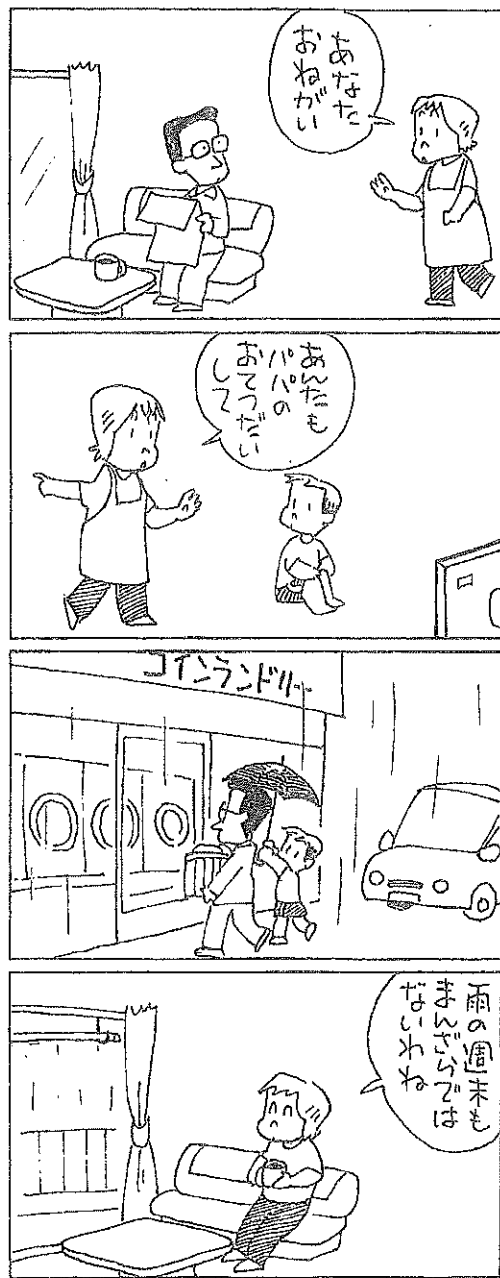
「次に必ず会えるかはわからない。気持ちよく別れよう」
家族とげんかし、無言で家を出ようとすると朝、玄関の前で必ず言われるのがこの言葉だ。
ムシャクムシャした気持ちを切り替えるのはなかなか難しい。でも、あの震災の後、大好きな人との最後の思い出が思わぬ一言となってしまうた人の悔しさや後悔を何度となく耳にした。母が言うのはきくとそういうことだろう。一緒にいるのがあまりに当たり前の家族や友達。その当たり前こそがとても幸せで大切なのだと、時々この言葉で気づかされる。
冷やした頭で、それにしても母だってひどい口調だったと思いつき、次こそ同じ言葉を言い返してみようと考えた

最優秀賞

仙台市立幸町中1年 鈴木心晴さん

まんまる 15512
オダシケ

●気持ちから、変えてみる!



ちよつとしたママでも、嬉しくなる。

お気楽「ラッキー」を増やして、ホントに大きい「ラッキー」を呼び込んでいきましょう。

「ラッキー」なことを、気にすることが大切なんです。昨日より今日が、今日より明日が「ラッキー」の数が増えたら嬉しいし、今日「ラッキー」と思わなかったことも、明日は「ラッキー」と思えるかもしれない。

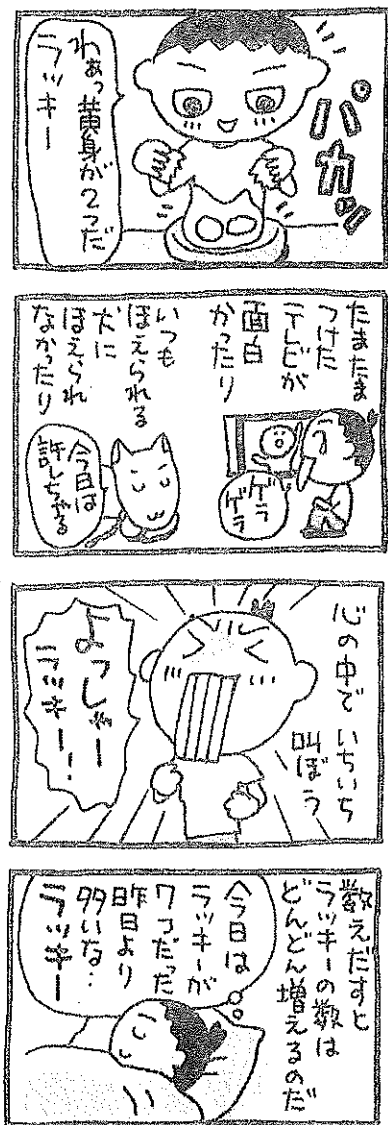
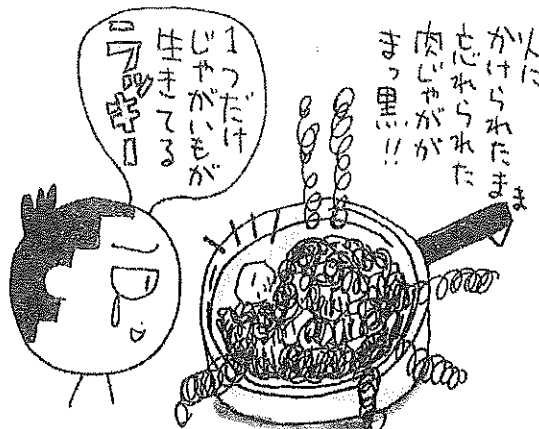
夕方、近所のコンビニの前を通った瞬間に、ぱっと看板の電気がつきました。思わず「ラッキー！」

一日に1回必ず起こっていることだけど、なかなかその瞬間を見ることができてないですよ。かといってずっとそこにへばりついて待とう、とまでは思わないし。だからすく「ラッキー」です。

こんなちよつちやなラッキーってたくさんあります。信号にひっかからないで目的地まで行けた、傘を持っていくの忘れたけど雨は降らなかった、友達から食べたかったお菓子をもらった、いつものスーパーに行ったら特売だった。急に人生が変わるってほどじゃあないけれど。そんな「ラッキー」を数えてみましょう。めんどろくさかったら「ラッキー」なことがあったらそのたび「よっしゃあー」と叫んでみましょう。まわりに聞こえて恥ずかしかったら、心の中でこっそり言ってみる。

「ラッキー」なことを、気にすることが大切なんです。昨日より今日が、今日より明日が「ラッキー」の数が増えたら嬉しいし、今日「ラッキー」と思わなかったことも、明日は「ラッキー」と思えるかもしれない。

お気楽「ラッキー」を増やして、ホントに大きい「ラッキー」を呼び込んでいきましょう。



ラッキーなことを、数える。

CHECK